

# かつらだより

## 学校教育アンケート(前期)

令和2年 10月  
京都市立桂小学校  
校長 梶 聰

学校教育目標『心豊かに 楽しく 学び続ける桂の子』を具現化するために、確かな学力の向上と豊かな心の育成に取り組んでいます。7月にご協力いただきました学校教育アンケートの結果をまとめましたので、お知らせします。ご多用の中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

今年度より、学校や家庭で大切にしたいことを児童・保護者・教職員がそれぞれ自らをふり返ることができる形式で実施しました。例えば、保護者アンケートでは「(児童が) ~できるように働きかけている」という表記になっています。

質問項目(児童の質問アンケートより)	児童の結果			
	よくできている	だいたいできている	あまりできていない	できていない
① 先生や友達の話を最後まで聞いている。	54.4%	42.1%	3.5%	0.0%
② 授業がよく分かる。	60.9%	35.6%	3.2%	0.4%
③ 臨時休校中や再開後も進んで家庭学習(宿題など)をしている。	72.7%	19.9%	6.3%	1.0%
④ 学校や家で20分以上読書をしている。	44.4%	28.7%	15.0%	11.9%
⑤ 自分から進んであいさつしている。	58.0%	31.1%	9.8%	1.0%
⑥ 学校の決まりや約束を守っている。	66.2%	31.0%	2.8%	0.0%
⑦ 学校が再開して楽しく過ごしている。	67.7%	25.3%	5.6%	1.4%
⑧ 友だちやまわりの人を大切にしている。	80.8%	17.1%	1.4%	0.7%
⑨ 早寝早起きをしている。	36.1%	38.2%	17.5%	8.1%
⑩ スポーツや外遊びで、身体を動かしている。	56.5%	24.6%	14.4%	4.6%
⑪ 学習計画表を見て準備ができている。	76.2%	17.8%	5.2%	0.7%
⑫ 学校の先生は、話しかけやすい。	52.4%	36.7%	9.4%	1.4%
⑬ PTA行事や地域の行事には、楽しみにしていることがある。	61.5%	21.0%	12.2%	5.2%

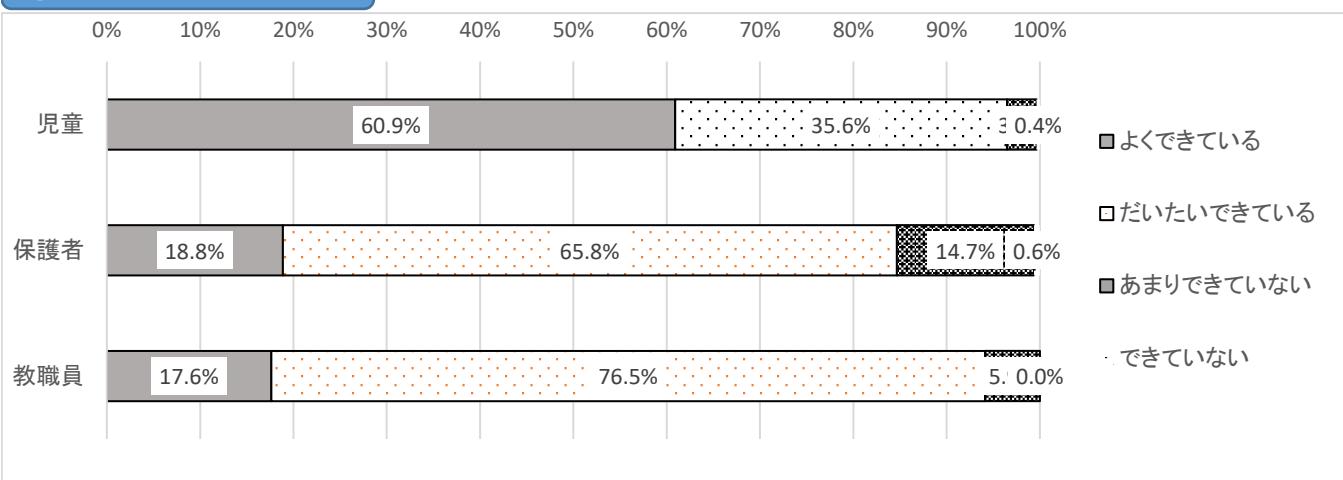
### 重要度の集計結果から

#### 【保護者・教職員のみ】

「重要である」「やや重要である」を合わせた数値を『重要度』、「よくできている」「大体できている」を合わせた数値を『実現度』として集計結果を取り扱っています。保護者の方は、ほとんどの項目で95%以上の重要度となっていました。内容項目③の「家庭学習を進んでしている」や⑪の「計画表を見て準備ができている」で重要であることを大きく意識していただいていることが読み取れます。学校と家庭とが協力して、児童のサポートをしっかりと続けていきたいと思っています。

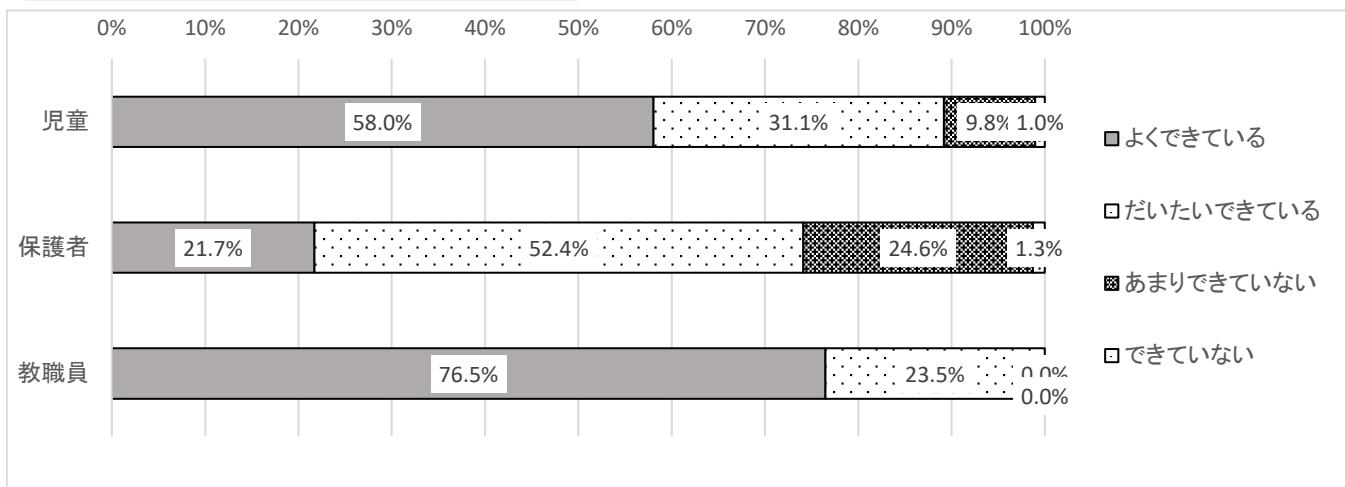
### 実現度の集計結果から

#### ②授業がよく分かる。



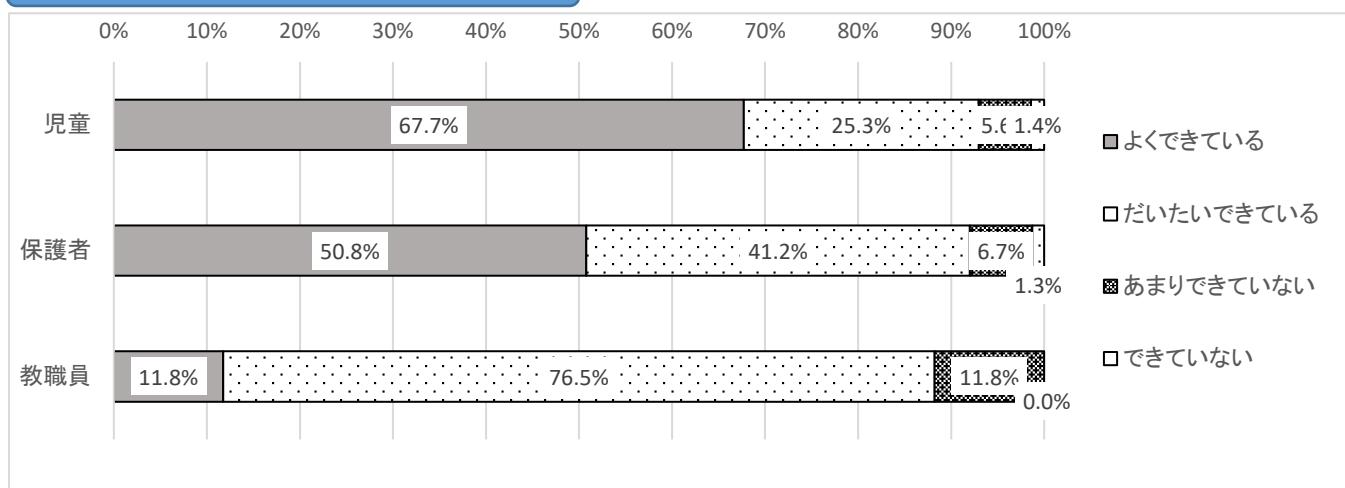
児童96.5%（よくできている約60.9%，だいたいできている約35.6% 以降，この順で表記）保護者84.6%（18.8%，65.8%），教職員94.1%（17.6%，76.5%）でした。児童の回答では「よくできている」が約6割となっており、保護者・教職員は「大体できている」が回答内で一番高くなっています。児童はおおむね授業がよく分かると回答しています。保護者は児童に常に働きかけることを意識していただけていることが伺えます。質問項目①「先生や友達の話を最後まで聞いています」の児童の②と同様の結果が出ていることから、学習時は人の話をしっかり聞き、取り組んでいる様子も分かれます。しかし、数%ではありますがわからないと答えている児童もいることも重く受け止め、寄り添っていきたいと思います。引き続き、わかる授業の実践を続け、確実に学力の定着に結び付けていきたいと思います。

## ⑤自分からすすんであいさつしている。



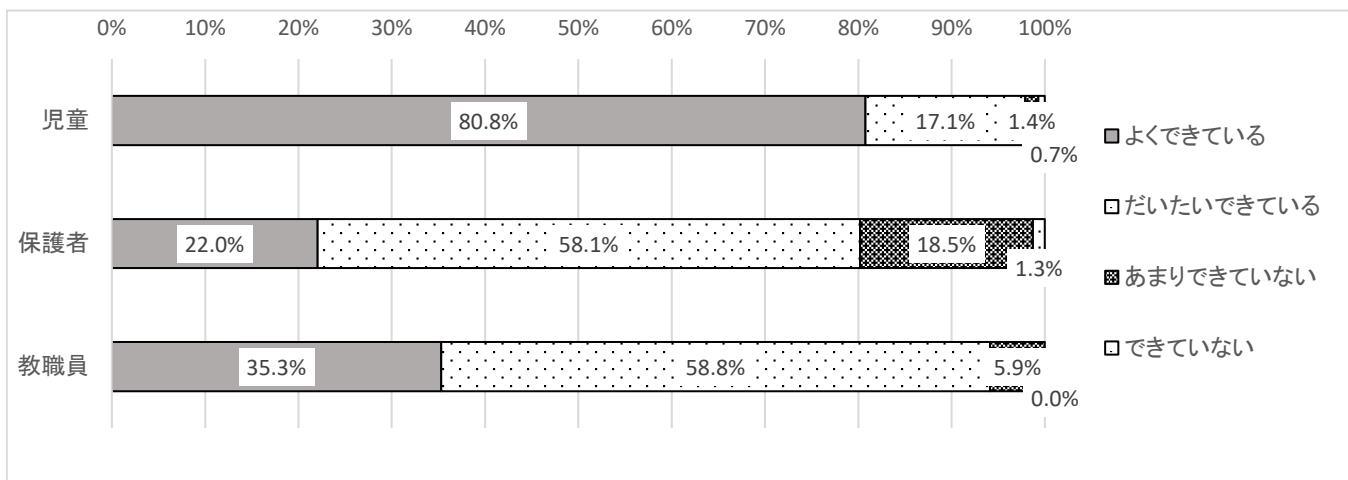
児童89.1%（58%，31.1%），保護者74.1%（21.7%，52.4%），教職員100%（76.5%，23.5%）でした。令和元年度後期の回答と比較すると、2~3ポイント下回っています。4月から休校が続き、声を出すことが恥ずかしいと思う気持ちも含まれていることが見て取れます。児童会で決めたかつらスタンダードを意識することで、今後続していく毎月25日（休日の場合は後ろにずれる）の「にこにこの日」の取組や日々の地域・保護者のみなさんの見守り活動から、増えていくようになります。日に日に多くの児童が自分から先に元気にあいさつができます。あいさつをすることがたくさんの人とのよりよい関係につながることを知り、自然にあいさつができる子に、またあいさつをすることが気持ち良いと感じられるような環境づくりを進めていきたいと思います。

## ⑦学校が再開して楽しく過ごしている。



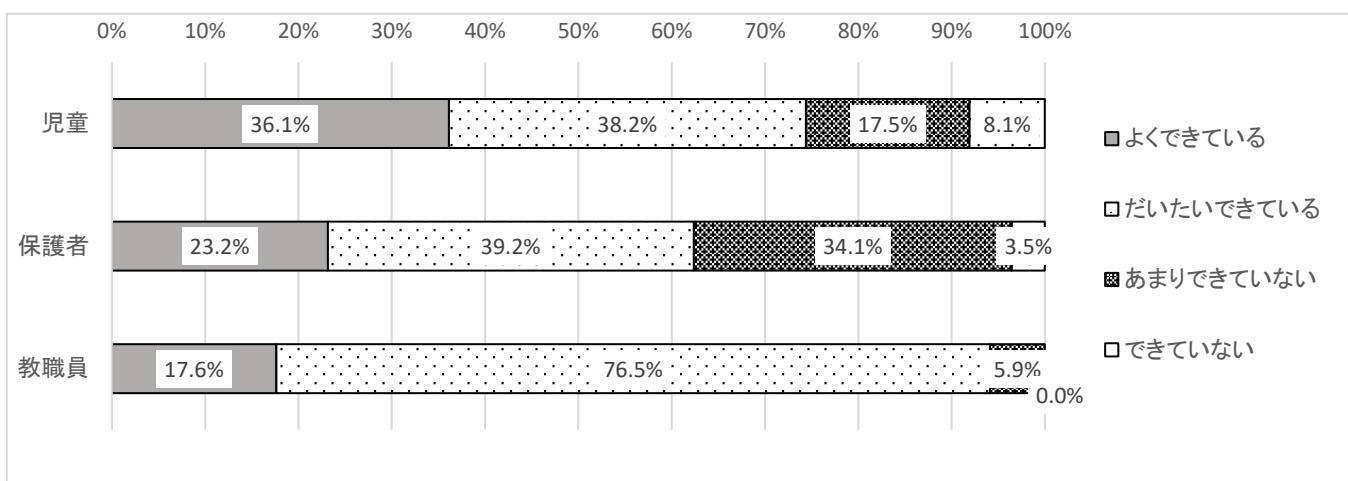
児童93%（67.7%, 25.3%），保護者92%（50.8%, 41.2%），教職員88.2%（11.8%, 76.5%）でした。学校の再開を待ち望んでいた児童が多数でした。しかしながら、依然7%程度「（あまり）できていない」と答えた児童が存在する結果があります。自宅で過ごす時間が3か月にもなり、6月からの再開も徐々にとはいえ、早寝早起き等、生活のリズムが整わずうまく生活の切替えができない児童もいました。また、友だち関係で、クラス替えから友だち関係について不安のあった児童もいました。これについては、今では楽しく通っている様子が伺えます。教職員の「子どもが行きたいと思える学級経営ができている」では、まだまだ向上していこうという思いが結果に表れています。新学期早々休校になった2か月の学習内容を確実に理解し、児童全員が学校が楽しい、学習が楽しいと思える学校経営を引き続き行なっていきます。

## ⑧友だちやまわりの人を大切にしている。



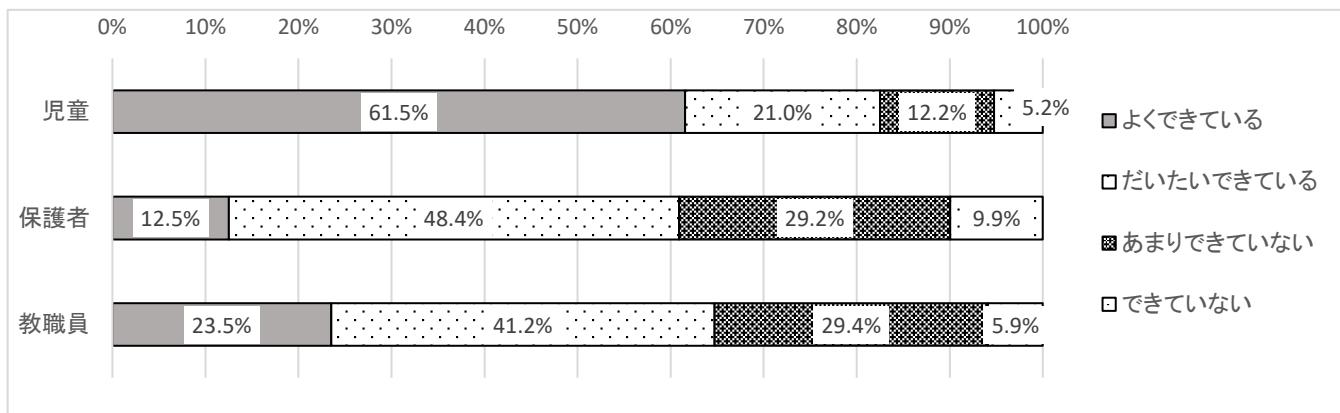
児童97.9%（80.8%, 17.1%），保護者80.1%（22%, 58.1%），教職員94.1%（35.3%, 58.8%）でした。児童は概ね友だちやまわりの人を大切にできていると回答しています。一方、保護者・教職員のポイントが昨年後期から下回っています。これは、質問の問い合わせ方に「人を大切にした言葉づかいや行動」という文言があるため、徹底しきれていないと回答していることが考えられます。児童が対話を通して相手の思いを理解したり、自分の思いを発信したりすること、友だち同士の良さを認め合うことは日頃から各学年、学習や生活の中でできていると感じます。学校が子どもにとって安心でき、自分の力を発揮できる場所になるよう学習する環境を整えていこうと思います。

## ⑨早寝早起きをしている。



児童74.4%（36.1%, 38.2%）, 保護者62.4%（23.2%, 39.2%）, 教職員94.1%（17.6%, 76.5%）でした。この項目は、学年によって結果が違います。低学年・中学年の児童は比較的規則正しく時間を決めていることが分かります。高学年になると、塾や習い事等で帰宅時刻が遅くなり、寝る時間が遅くなる児童もいます。保護者は、早寝早起きを習慣づけているかという内容になっていますが、あまりできていないに3割ほどの方がいます。高学年は、これから中学生・高校生と成長する過程で、決まった時間に寝起きする習慣を身に着けていくことも考えていく年齢になってきていると思います。教職員は、日々の声かけとなぜ睡眠が大切なかを伝えることで、児童に支援しています。児童の健康な毎日のために、規則正しい生活が継続できますようご協力をお願いします。

### ⑬PTA行事や地域の行事には、楽しみにしていることがある。



児童82.5%（61.5%, 21%）, 保護者60.9%（12.5%, 48.4%）, 教職員64.7%（23.5%, 41.2%）でした。地域やPTA行事を楽しみに参加している児童は多くいます。休日については各家庭の都合もありますが、毎年本当に多くのイベントを計画・実行していただいている。今年度はコロナ感染予防対策のために行事の変更が多くあり、児童も本当に残念そうです。しかし、近い将来に開催されることを心待ちにしています。児童は、地域・PTAなどたくさんの方にお世話になって健やかに育ててもらっています。教職員は、引き続き参加を促す声かけとともに、地域・PTAなどたくさんの方に見守られていることを伝えていきます。

### その他実現度の全般から

児童・保護者・教職員の3者の実現度から、昨年度からの課題である項目の「④読書について」の変化を見ました。昨年度までは「家庭で毎日読書をしているか」という質問に対して課題がありました。今年度は「学校や家で」という質問に変えたところ、若干の伸び率はみられました。昨今、「活字離れ」や「心の豊かさ」について言われるところですが、本校においても改善の要素があると思います。休み時間に図書館を利用する児童も多く本が好きな様子もうかがえますが、同じ児童の利用が多いです。図書館の利用もこれまでとは違い、校内のみで読むことになっています。本来の読書の良さである「ふとした時に手に取って本に向かえる」といった観点が読書についての課題改善かと考えます。児童が読書をすることに抵抗なく、楽しんで読む習慣が身につくように今後も支援していきます。

### 重要度と実現度の結果から

冒頭にも記したように、今年度より質問の問い合わせ方を「ご自身がどうしているか」という文面に変えています。どの項目も重要度の「重要である」と答えが多少の差はあります、すべての項目でおよそ8割程度が重要であると回答しています。一方、実現度は、「できている」の項目はおよそ2割程度で、「大体できている」と合わせて8割程度となっています。「大体できている」との回答の方が多くご自身に厳しい結果でした。質問事項のどの項目も児童にとって必要であるという気持ちの表れであると感じます。

昨年に引き続き、実現度を高めていき、満足のある生活が送れるように取組を充実させ、子どもたちの姿の変容をめざします。

児童のアンケートは実現度のみの回答となっていますが、児童・保護者・教職員の3者で合わせてみた場合、「読書」「早寝・早起き」「外遊び」が課題としてとらえられます。家庭・地域・学校と子どもたちの様子をよりたくさんの大人の目で見守りながら、温かく支援していきたいと思います。引き続きご協力をお願いします。